

水原 紫苑 選

伊藤 一彦 選

米川千嘉子 選

加藤 治郎 選

毎日歌壇

ねむるって決めてから寝る。亀がいる わたしはきつと海をしている 東京 奥山いずみ

△評▽夢の中で「海をしている」ことのかしが、「亀がいる」という唐突なる句め

の面白さ。夢とは舞台でもあるのか。

真二つにせんと林檎に当たれば刃は深き紅を映せり 京都市 小池ひろみ

△評▽刃とはすなわち鏡でもあること的美感と恐ろしさが引き締まった調へに乗る。噴水が非対称にて在ることの意味を問いつける秋の午後 宇治市 黒野 れお

屑籠に捨てられていた花束は泣いてもいいに綺麗なままだ 枚方市 久保 哲也

アンブレラの糸はほどけて老眼のわたしを誘う黒い方舟 碧南市 江原 冬莉

この星にアンモナイトや恐竜が埋まり僕らも半分埋まる 倉敷市 中路 修平

正義って先天性のものかしら充填豆腐の四角なめらか 千葉市 芍 葉

交番に灯がともるのを遠く見て捕りたる蜻蛉 天へと放つ 北名古屋 月城 龍二

天からもわたくしからも立ち去ろう水面に音の波を立て 横浜市 安西 大樹

バツハにもヒバルディも神がいて清志郎には人間がいる 東京 野上 卓

字にすれば「数十年」も一言で言い得てしまふ如理の憂鬱 筑紫野市 桂 仁徳

△評▽「如理水」の放出完了まで何十年かかるのか。「数十年」と口では一言だが、実に長期間だ。「憂鬱」の語が重たい。

雨音が目の底にはのこってるもういないひとがいたときの音 東京 奥山いずみ

△評▽雨音を聴きながら部屋で語らった相手との濃密な時間。新鮮な文体に説得力。食卓の位置受け継ぎて母を見る父になれない父の視点で 市川市 岡本 恵

カナカナの消えてしまった横浜の夏は突然過ぎ去って行く 横浜市 朔月 七

無視をするだけで相手の首締めることができると君は知らない 奈良市 久保 祐子

次々と夫のスマホが受信する関東各地のブルームーンを 太田市 小笠原千恵子

当選が決まり遠くの人になる僕の一票賣った人も 秋田市 菊地 北星

アイゼンを雪深に食ませコマクサにほっと一息し目指す山頂 安芸高田市 菊山 正史

原産はメキシコと知り百日草の種の旅路をそつと劣ふ 由利本荘市 佐々木静江

水槽に百日草を浮かべればメダカの食みて透ける花の心 春日井市 月夜の雨

部下全員ロボットなのでストレスは皆無とファミレス店長語る いわき市 吉田 健一

△評▽ストレス「皆無」はいいけれど、協力して働く喜びとかお客さんの評判はどうなのか。誰も人間を求めていない？

ひらがなにながな名ささやく朝空の母を見上げてこころを立たす 垂水市 岩元 秀人

△評▽一音一音に思いを込めて名前を呼んでくれた母が住むような空が作者を包む。風鈴が下がっておるが涼呼ばず熱風ひとえに雁木を渡る 上越市 戸枝 誠

選句時は紙幣鑑定機のように短冊めくる夏井いつき氏 中国 源 漫

「第九波 凄まじいよ」と医師は言う みんながマスクを外した街で 千葉市 佐藤 綾子

くすぶってやろうぜ君とロッカーへ火気厳禁のため息を吐く 四日市市 早川 和博

献血をことわられた身体にいれる透けてやまない夏のためもの 花巻市 永汐 れい

言いだせば止めどないから少しづつイチゴ氷をくすして食べる 仙台市 小野寺寿子

復員の父を訝り弟は「いつボルネオに帰るの」と言へり 日立市 木村 恵子

町内の夜の見廻りにとっさどっさと男衆 月に照らされて 春日市 林田 久子

厨房でレンジ重ねる音がする閉店前の足音やさし 東京 新井 将

△評▽中華料理店だろう。もうじき営業が終わる。洗ったレンジを重ねている。足音は店員か、お客か。味わい深い音の描写だ。

恋しくてただ会いたくて君のいる盛岡行きのバス乗り場にいる 西東京市 佐々木節子

△評▽切ない恋心である。夜行バスだろう。なかなかバスに乗れないのだと想像する。夏の光いつもこんなに眩しくて誰も誰かの死後を生きを取り 名古屋 浅井 克宏

叱られて窓から差す陽があかるくて爪にへこみを見つけてしまう 所沢市 神田 望

クロケシツプチョッキリという長き名の書虫わずか三ミリ 憎し 知多市 中井 中

ねえそんなパセリのような人生でいいのうちに唐揚げは訊く 札幌市 住吉和歌子

アンケート□男□女にレを打てず紙はすらされ□犬にレと打つ 浜松市 尾内甲太郎

やさしさや寄り添うことも意味がない□紅が減るそんな日もある 横須賀市 森久保りりか

お互いの胸の柔さをさしだして雲海を踏むようだ暮らしは 札幌市 鈴木 精良

かなしみは大きな音でぶつかって通りの人に紛れる花片 平塚市 芝澤 樹

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、〇〇先生(希望選者名)係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(<https://mainichi.jp/kadan-haidan/>)でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。



こちらから投稿できます